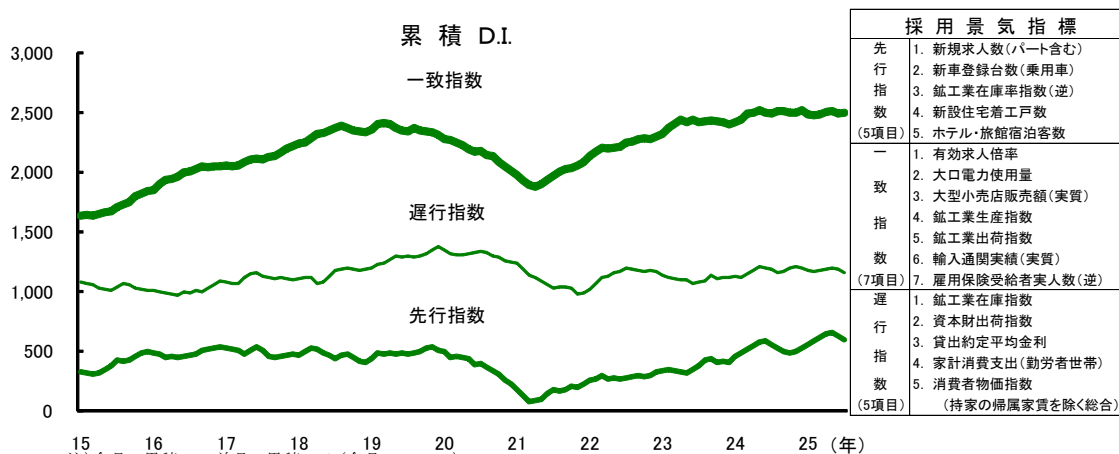


1. 景気動向指数

平成 25 年 7 月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、大口電力使用量、大型小売店販売額（実質）、雇用保険受給者実人数（逆）の 4 項目がプラスとなり、全体では 57.1%と 2 カ月ぶりに 50%を上回った（7 項目のうちプラス 4、マイナス 3）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）の 1 項目がプラスとなり、全体では 20.0%と 2 カ月連続で 50%を下回った（5 項目のうちプラス 1、マイナス 4）。

遅行指数は、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）の 1 項目がプラスとなり、全体では 20.0%と 2 カ月連続で 50%を下回った（5 項目のうちプラス 1、マイナス 4）。



注) 今月の累積DI=前月の累積DI+(今月のDI-50)

一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。

資料)宮崎県県民政策部統計調査課

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

景気動向指数 = (プラス項目数 + 横ばい項目数 × 0.5) ÷ (プラス項目数 + 横ばい項目数 + マイナス項目数) × 100 (%)

2. 鉱工業生産

7 月の鉱工業生産指数は、88.6 で前年比 3.0%減と 3 カ月連続で前年を下回った。

主要業種別にみると、電子部品・デバイス (3.3%減)、食料品 (4.0%減)、化学 (5.7%減)、繊維 (2.1%減) の全てが前年を下回った。

3. 建設関連

① 公共工事

9 月の公共工事請負高は、210 億 3,300 万円で前年比 73.8%増と 6 カ月連続で前年を上回った。

発注者別にみると、国が 47.9%増、県が 24.3%増、市町村が 33.4%増、その他（独立行政法人等）が 893.4%増となった。

② 着工建築物

8 月の着工建築物は、棟数が 639 棟で前年比 27.8%増、床面積は 126,396 m²で 30.8%増となった。

内訳をみると、居住用は棟数 25.2%増、床面積 31.2%増となり、非居住用は棟数 35.4%増、床面積 30.4%増となった。

非居住用の床面積を用途別にみると、鉱工業用 85.3%減、商業用 278.4%増、サービス業用 77.9%増となった。

③ 住宅着工

8月の新設住宅着工戸数は、705戸で前年比33.3%増と3カ月ぶりに前年を上回った。
利用関係別にみると、持家は27.1%増、貸家は51.2%増、分譲は28.6%減（マンションは前年0戸→本年0戸、一戸建てが同49戸→35戸）となった。

4. 個人消費関連

① 大型小売店販売動向

8月の大型小売店販売額は、71億1,700万円で前年比5.1%減と3カ月ぶりに前年を下回った。
商品別では、衣料品は14億9,500万円で10.5%減、飲食料品は33億500万円で3.7%減、その他計は23億1,700万円で3.3%減となった。

② 乗用車新車販売動向

9月の乗用車新車登録台数は、2,039台で前年比9.4%増と13カ月ぶりに前年を上回った。
車種別にみると、普通車は888台で19.4%増、小型車は1,151台で2.9%増となった。

5. 空港乗降客数

8月の宮崎空港乗降客数は、28万3,891人で前年比6.8%増と20カ月連続で前年を上回った。
乗客数は14万3,263人（前年13万3,890人）と増加し、降客数も14万628人（前年13万2,002人）と増加した。

6. 消費者物価指数

8月の宮崎市の消費者物価指数は、100.4で前年比0.6%上昇した。
これを費目別にみると、光熱・水道（5.6%増）、交通・通信（3.6%増）など5費目は上昇したものの、教養娯楽（1.4%減）、食料（0.8%減）など4費目は下落した。

7. 企業倒産

9月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は、1件で前年を下回った。負債総額は6,500万円
で前年比71.4%減と2カ月連続で前年を下回った。
業種別では、小売業1件となっている。

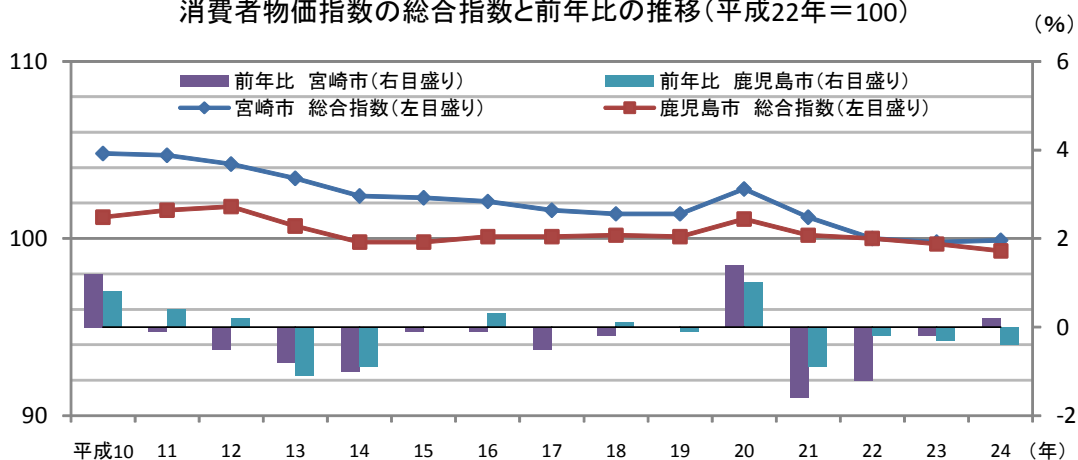
8. 雇用情勢

8月の有効求人倍率は、0.79倍で前月から0.01^{ポイント}減少した。
新規求人数は、7,181人で前年比0.7%減となった。
学術研究、専門・技術サービス業（67.4%増）、建設業（8.3%増）など11業種が増加となった一方で、医療・福祉（13.7%減）、卸売・小売業（10.3%減）など7業種が減少した。
雇用保険受給者数は、6,473人で前年比12.8%減と15カ月連続で減少した。

〈今月のトピックス〉～ 宮崎市の消費者物価指数

宮崎市の平成24年平均の消費者物価指数は、平成22年を100とした総合指数で99.9となり、前年比0.2%の上昇となった。平成24年は、原油価格などの値上がりによって電気代など光熱・水道が上昇したほか、東日本大震災の影響による平成23年産米の品薄感によって穀類などの食料が上昇したことなどにより、総合指数は上昇した。

消費者物価指数の総合指数と前年比の推移(平成22年=100)



資料) 宮崎県、鹿児島県